

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
1-1.	学部から大学院までを見通した教育体制の構築	1-1-①	学部共通教育体制と国際性涵養教育体制の強化	田中敏宏理事	教育・学生支援部 教育企画課	<p>○学部共通教育体制の充実化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学共通教育科目をカテゴリー毎に統括する各部長が、科目により各部署と連携して行う全学共通教育の質保証に向けた活動 ・高年次に教養教育を学ぶ高度教養教育科目の充実化を図るため、延べ履修科目数14,000科目、受講者満足度80%とする。 <p>○国際性涵養教育プログラムの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語教育体制整備の継続的実行 <ul style="list-style-type: none"> 総合英語、実践英語(e-ラーニング)、TOEFL ITPを含む英語授業の継続的実施と実施体制の見直しと改善 授業および教育方法改善のためのFD活動 ESAP（特定学術目的の英語）教材の継続的開発、将来のカリキュラム化に向けての英語授業での試行の継続 英語高度運用能力を持つ学生の育成 ・全学共通教育における低年次から高年次までの一貫した多言語教育体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> 国際性涵養教育（低学年次）の継続的実施と改善策の検討 高度国際性涵養教育（高学年次）の継続的実施と成果の検証 ・高年次に国際性涵養教育を学ぶ高度国際性涵養教育科目の充実化を図るため、国際性涵養教育の性質を併せ持つ専門教育科目を含めた科目の延べ履修科目数30,600科目、受講者満足度77%とする。 ・多言語学習支援体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> OUマルチリンガルプラザ（多言語対応自律学習センター）の継続的運用と機能強化 オンライン学習支援体制整備の継続 大阪大学における言語学習リソース・施設についての情報集約、情報提供のワンストップ化への貢献 ・国際性涵養教育（マルチリンガル教育）の企画・運営・評価・改善等にかかる事務組織設置についての検討の継続

令和6年度 OUアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
		1-1-②	大学院教育支援体制の強化	田中敏宏理事	教育・学生支援部 大学院教育改革推進室	<ul style="list-style-type: none"> ○大学院横断型教育組織の運営体制の充実化 国際共創大学院学位プログラム推進機構を学際大学院機構へ改組し、大学院横断型教育組織の運営体制の充実化を図る。 ○学内における横断型教育に係る連携体制の構築と安定化 学部共通教育組織との連携体制の構築と安定化のため、全学教育推進機構との連携体制を維持し、ともに学部向け横断型教育の検討を行う。さらには、PDCAサイクルにより改善の方向性も探る。 ○部局における大学院教育との連携強化 部局における大学院教育とさらに強固に連携し、大学院横断型の機能を推進するため、「学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システム(DWAA)」に関する新たな枠組み「高度教養モジュール」を実装する体制を整備し、全学に広報する。 ○分野別学位プログラムの統括管理に向けた検討を開始 ○大学院教育支援体制強化に向けた事務体制の検討 教育事務体制の強化の方向性の検討を開始する。

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
		1-1-③	Student Life-Cycle Support Systemとその活用による教育・研究指導体制の強化ならびに運営体制の整備	田中敏宏理事	教育・学生支援部 教育企画課	<p>○教学データの収集、統合、解析、学生・学習支援システムの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Student Life-Cycle Supportシステムの構築 ・ 分析結果の部局及び学生へのレポートシステム構築 ・ 教務、学生データを集約したデータベース(Learners Record Store)の構築と継続的な更新 <p>○Student Life-Cycle Supportシステムの運用に向けた教学データの収集・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 在学生への情報提供数（目標6,000件/年） ・ 卒業生・修了生の情報収集・分析（目標1,500件/年） ・ 高校生のデータ登録・分析（目標1,200件/年） <p>○Student Life-Cycle Supportの運営組織の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「スチューデント・ライフサイクルサポートセンター」の完成。独立部局として自走 <p>○学部、大学院及び共通教育・横断型教育関係組織との連携体制構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スチューデント・ライフサイクルサポートセンターによるデータ活用法等の研修会をオンラインを中心として複数回開催し、Student Life-Cycle Supportシステムの本格運用に備える。 ・ 運営協議会や教員の兼任を通じて関係組織との連携を強化する。 ・ 国際卓越研究大学構想に向けて学際大学院機構（i-TGP）との連携を強化する。 ・ 高大接続事業を拡充し、本学における未来をデザインする卓越博士人材の育成を強化するために小中も含むより包括的な卓越博士人材育成を目指す小中高大院連携・接続プログラムの導入に向けての検討を開始する。

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
		1-1-④	自主性、指導性、協調性などを培うための課外活動・キャリア支援・修学支援体制の強化	田中敏宏理事	教育・学生支援部 学生・キャリア支援課	<p>○各種自主研究事業の安定的運営のため、事業を推進、成果を広報し、事業に参加する学生数190名／年に到達させる。</p> <p>○(1)経済的に困窮する博士（後期）課程学生の授業料免除申請者のうち、授業料免除の適格者に対する免除の実施。（100%）</p> <p>(2)次世代研究者挑戦的研究プログラムの実施 令和5年度に再申請（令和5年12月申請、令和6年3月採択決定）し、採択となった次世代研究者挑戦的研究プログラム（新SPRING事業）の確実な実施を行うことにより、生活費相当の支援をうける博士（後期）課程の学生を確保する。（令和6年度～令和8年度の支援枠数：平均725枠）</p> <p>(3)次世代AI人材育成プログラムの実施 令和5年度に申請（令和6年2月申請、令和6年3月採択決定）し、採択となった次世代AI人材育成プログラムの確実な実施を行うことにより、生活費相当の支援をうける博士（後期）課程の学生を確保する。（令和6年度～令和8年度支援開始（採用）分：合計51名）</p> <p>○課外活動を通じた人材育成 課外活動サポートのための取組として、①課外活動環境の整備・充実、②優秀な課外活動の業績を収めた学生の表彰、③大学をあげて実施する体育大会や学園祭のバックアップ、を毎年度着実に実施。</p> <p>○キャリア形成の推進及びキャリア教育・支援体制の充実 ①学部生のキャリア支援科目の発展的見直しを行うために開講科目を限定し、受講生は300名／年とする。なお次年度からの全学部学生必修の授業科目の新規導入も含めて次年度以降のキャリア支援科目の質と量の充実に向けた検討と調整を行う。②博士前期課程・修士課程におけるキャリア支援イベント参加学生数を750名／年とする。③博士後期課程におけるキャリア教育の参加学生数を100名／年とする。</p>

令和6年度 OUアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
		1-1-⑤	対面授業とメディア授業の併用による「ブレンデッド」教育体制の確立	田中敏宏理事	教育・学生支援部 教育企画課	<p>○ブレンデッド教育の普及を推進するための体制の構築</p> <p>(1)教育等基盤設備更新計画に基づき、全学教育推進機構の稼働率の高い講義室を優先し、ブレンデッド教育を円滑に導入するための教育設備の整備を行う。</p> <p>(2)ブレンデッド教育普及のための教育支援システムとICTサポートの充実を図る。</p> <p>(3)教員および学生に対する技術的サポート体制の拡充/経済困窮学生への支援を行う。</p> <p>○ブレンデッド教育のためのFDの強化</p> <p>(1) 大学教員の教育支援・能力開発 (FD)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインでのFDを継続して実施する。また、大阪大学の教育、研究、社会学連携、学内組織運営の取組みをさらに向上させることを目的とした新任教員研修制度を実施し、全学及び全学教育推進機構、並びに各部局等が実施している各種教員等向け研修を体系化し、新規採用の講師・助教等にプログラムを引き続き提供する。 ・オンデマンド形式のFDのコンテンツを継続して蓄積し、学内専用サイト等からコンテンツを提供する。 ・ブレンデッド教育推進のためのFDの実施 <p>(2)大学院生のキャリア開発としてのプレFDの一つとして、未来の大学教員育成プログラムFFP (Future Faculty Program) を引き続き実施し、大学教員志望の学生を支援する。</p>

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
1-2.	学部・大学院教育内容のさらなる充実化	1-2-①	「知と知の融合」、「学際融合」や「社会と知の統合」科目の充実のための Double Wing Academic Architecture 構想の定着化	田中敏宏理事	教育・学生支援部 大学院教育改革推進室	<p>○大学院等高度副プログラム/大学院副専攻プログラムなどのDWAAへの定着化 「知の探究」プログラムの専門分野のコアカリキュラムが適切に「知と知の融合」ならびに「社会と知の統合」と有機的に結びつくのかを点検し、必要に応じて、プログラム担当者にアドバイスを行う。</p> <p>○部局独自のDWAA系プログラムの拡充 各部局が独自のDWAA系プログラムを企画・展開できるようにするため、要件単位数を少なめに設定した新たな枠組「高度教養モジュール」を実装する体制を整備し、全学に広報する。</p> <p>○DWAAに関する教育プログラムの体系化に向けた検討 既存のDWAAに関する教育プログラム（「知のジмнаステックスプログラム」）の整理・体系化を行う。</p> <p>○卓越大学院プログラム、リーディングプログラム及び後継プログラムの安定的な運営</p> <p>(1)リーディングプログラム 活動実績等を評価し、継続の可否を検討する。</p> <p>(2)卓越大学院プログラム 既存プログラムの自主財源による部分的支援を継続する。</p> <p>(3)理工情報系オーナー大学院プログラム プログラム履修者数などの継続的なモニタリング</p> <p>(4)人文社会科学系オーナー大学院プログラム プログラムの提供を開始する。</p> <p>○今後実施する学位プログラムの準備等の実施 特定分野学位プログラム（感染症学・免疫学学位プログラム）を実施・支援する。 分野連携学位プログラムの企画・設計等に関する検討を行う。</p>

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
		1-2-②	数理学・データ科学・情報科学教育の強化と全学体制の構築	田中敏宏理事	教育・学生支援部 教育企画課	<p>○数理・データ情報科学教育の全学体制の構築 数理・データ科学教育研究センターを中心に全学教育推進機構等と連携し、全学共通教育における数理・データ情報教育を推進する。</p> <p>○数理学・データ科学・情報科学教育の推進 ・高度な情報化社会の創造に資する数理学・データ科学・情報科学に関するリテラシーを身に付けた人材の育成を目的として、文理を問わず全学の部局において、数理学・データ科学・情報科学教育の充実を図るために、共通教育の情報教育科目を中心に、e-learning教材の開発、改良を常時進める。</p> <p>・上記の取組により数理学・データ科学・情報科学に関する科目の受講者数6000名以上を目指す。</p> <p>○情報・数理教育、研究の実現を通じた高度情報専門人材育成の推進 学内における卓越した情報系の教員・研究者らのリソースを結集し、多様かつ高度な情報・数理分野を網羅し、選択的に学習できる教育カリキュラムを提供するための体制を確立する。これらの教育プログラムを実践する場となる工学部・基礎工学部の収容定員の増加を計画するとともに、教育設備の整備を行う。</p>
		1-2-③	人文社会科学系教育リソースの全学的活用による横断型教育体制の構築	田中敏宏理事	教育・学生支援部 大学院教育改革推進室	<p>○人文社会科学系組織の教育プログラムの体系化の促進 ・人文社会科学系オーナー大学院プログラムについて、人文社会科学に関係する部局が主体となって、プログラムの提供を開始する。</p> <p>・各研究科の分野横断型教育プログラムをDWAAIに応じた「知の探究」「知と知の融合」「社会と知の統合」の整理統合・体系化を検討する。</p> <p>○大学院横断型教育組織との連携体制構築 ・学際大学院機構を中心に、大阪大学全体の異分野横断型教育体制の充実を図るとともに、人文社会科学系オーナー大学院プログラム部門からも、博士後期課程学生への経済支援などのプログラムの運営に参画する等、連携体制を強化する。</p> <p>・学際大学院機構を核として、C0デザインセンター、社会ソリューションイニシアティブ（SSI）、社会技術共創研究センター（ELSI）、グローバル日本学教育研究拠点等の学際融合系の教育プログラムを担う組織の連携関係強化について検討する。</p>

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
		1-2-④	健康・スポーツ科学教育研究連携体制の構築	田中敏宏理事	教育・学生支援部 教育企画課	令和6年4月1日に「健康スポーツ科学教育研究環」を設置し、学内の健康・スポーツ科学に関わる教育・研究を一元的に推進する体制を構築する。健康データ収集システムの検討、健康データを活用した研究の推進及び新教育プログラムの企画を開始する。

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
1-3.	学外のようなステークホルダーとの連携を活用した人材育成	1-3-①	国際連携を軸にした国際交流教育プログラムの拡充	深瀬理事、山本理事	国際部国際学生交流課	<p>【1-3-①-1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部英語コースの人間科学部、理学部以外への導入を開始する。 ・グローバルイニシアティブ機構、インターナショナルカレッジ、スチューデント・ライフサイクルサポートセンター（SLiCS）等の学内組織の連携やオンラインの活用により、広報・入試の効率化と充実に継続的に取り組む。 ・企業奨学金の拡充や企業への宣伝活動により、国内就職状況の改善に継続的に取り組む。 ・以上の取組により、学部留学生在籍者数350名の達成を目指す。 <p>【1-3-①-2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院英語コースの拡充に継続的に取り組む。 ・ダブル・ディグリー・プログラムの拡充、修士博士一貫プログラムの拡充により、大学院英語コースへの進学率のさらなる向上を図る。 ・MOOCsコンテンツやオンライン講義用設備の充実化などにより、オンライン教育環境の整備を進める。 ・ASEANキャンパスやグローバルナレッジパートナー（GKP）との連携を活かした国際交流教育プログラムの拡充に継続的に取り組む。 ・以上の取組により、大学院英語コース在籍者数600名、ダブル・ディグリー・プログラム実施数70件の達成を目指す。
		1-3-②	インターンシップ・オン・キャンパスプログラムの全学的展開ならびに企業・大学相互メリット型リカレント教育体制の構築	田中敏宏理事	教育・学生支援部教育企画課	<p>○共同研究講座及び協働研究所を活用したインターンシップ・オン・キャンパスプログラムの全学的展開ならびに新たなインターンシップ教育プログラムの構築に向けた検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働研究所による産学共創をベースに、REACHプロジェクト※を引き続き推進するとともに、起業志向人材支援型のプログラムの設置準備を行う。また、人文社会系まで拡大した新たなREACHプロジェクトを開始する。人文社会系の1プログラムを新たに加え、計14の学位プログラムとする。 ・修士課程の学生が修士課程修了後、直ちに企業に就職後も、就職先に在籍したまま引き続き博士課程の学生として博士号取得を目指す新たな取り組みを開始する。 <p>○最先端研究を行う企業等研究者の博士号取得体制の構築ならびに社会人教育プログラムの支援体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働研究所等を有する企業からの若手研究者の受入れ、協働研究所や研究室の支援を通じて同研究者の博士号取得を推進する。 <p>※REACH = Recurrent & Re-skilling Academia and Industry Collaboration for Higher Education</p>

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
2-1.	学術機関の根幹となる多様な基礎研究の実践	2-1-①	全ての研究者が知的好奇心・探求心に基づく基礎研究を持続的に実施可能とする活動基盤の拡充	尾上理事	研究推進部研究企画課	2-1-①-1 国際URA、経営IR機能等の強化のための経営企画オフィスの体制見直し 外部資金及び各賞の公募情報の研究者への周知 科研費等外部資金及び特別研究員の学内説明会、申請書書き方セミナーの実施 「URA×IR業務を担う事務職員育成プログラム」等のURAディベロップメントの実施とキャリアパスの構築 2-1-①-2 科研費相談員制度、模擬面接の実施 採択された特別研究員申請書の学内開示による作成支援 2-1-①-3 学内予算による国際研究支援事業の実施 民間助成や基金等の獲得による海外派遣事業等の実施 2-1-①-4 大学院生に対する支援の実施 「公的資金による学術論文等のオープンアクセスの実現に向けた基本的な考え方」（令和5年10月30日）をはじめとする国の方針等を踏まえた、英語論文投稿支援事業などの支援の実施 民間助成や基金等の獲得による若手研究者支援の実施 2-1-①-5 他大学等、産業界等との組織的な連携や大学の枠を越えた共同利用・共同研究を推進 研究所・センター間の連携に向けた施策の実施 プロジェクトに関する積極的な概算要求

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
		2-1-②	研究資料、学術情報基盤やリポジトリを含む各種デジタル・リソースの充実化	尾上理事	附属図書館	<p>2-1-②-1</p> <p>【デジタル・リソースの充実による研究基盤の整備 -研究環境整備等の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国のオープンアクセス方針、電子ジャーナル転換契約等を踏まえたデジタル・リソース整備計画の再検討 ・利用状況調査に基づくデジタル・リソースの整備 ・APC調査及び購読契約への反映検討 ・データベース等の購読契約・負担方式の再検討 <p>【機関リポジトリ収録コンテンツの充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内刊行物、絶版となった研究者著作の電子化公開を重点的に推進 <p>2-1-②-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属図書館将来構想の策定 ・新しい大学図書館に求められる人材育成計画の策定継続 ・図書館蔵書管理計画に則り資料の不用決定を進める ・所蔵資料デジタル化対象検討
		2-1-③	学内に偏在する先端的研究・実験機器の可用性向上	尾上理事	研究推進部研究企画課	<p>2-1-③-1</p> <p>戦略的基盤整備、人材育成等の機能強化に向けたコアファシリティ機構の体制見直しによる全学レベルでのコアファシリティ化のさらなる推進 小規模データ集約配信システム・データ集約基盤ONION(Osaka university Next-generation Infrastructure for Open research and open Innovation)・学認RDMなどの活用支援など、データ利活用・研究DX支援体制の構築</p> <p>共用対象設備・機器の拡大及び共用プラットフォームの利便性向上による共用設備・機器の「見える化」・「オープン化」・「拡大」の推進 技術職員へのインセンティブ設計や高度な研修をはじめとする人材育成施策の実施</p> <p>2-1-③-2</p> <p>分野横断機器利用支援チームによる高度な技術相談・分析支援や課題解決ソリューション提供等による高度な研究支援実施 協働研究所等を活用した民間資金等による先端機器の戦略的導入・更新施策の実施</p>

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
		2-1-④	安心して研究に打ち込める研究環境安全管理、安全保障輸出管理体制の強化	尾上理事	研究推進部研究推進課	<p>2-1-④-1 総合的リスクマネジメントにむけた、利益相反・責務相反、安全保障輸出管理、経済安全保障・研究インテグリティ等のリスクの評価に必要な要素を洗い出すとともに、関連部署との役割分担を含めた連携に向けた調整の推進 講習会等の受講状況を検証し、内容を充実化</p> <p>2-1-④-2 研究環境安全管理等のシステムの導入に向けて他大学の調査や現在の学内手続等と併せて検討を行う。</p>
		2-1-⑤	社会の信頼と負託に応える高い倫理観を養うFDの徹底	尾上理事	研究推進部研究推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・公正研究推進協会（APRIN）を活用した全学的なe-learningの推奨と拡大 ・論文剽窃チェックツール「iThenticate」の検知機能を拡充し、引き続き全学で導入 ・海外動向の調査と、本学研究倫理教育への反映及び不正行為を抑止する環境の検討

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
2-2.	世界レベルで卓越した研究拠点形成と新たな研究領域の開拓	2-2-①	重点研究分野の国際的プレゼンス向上のための研究推進支援体制の強化と重点投資	尾上理事	研究推進部研究企画課	ヒューマン・メタバース疾患研究拠点 (PRIME) の研究活動の加速化に向けて引き続きバックアップを行うとともに、生命医科学融合フロンティア研究、共生知能システム研究等、本学の強みである研究に対する集中的なリソース投入を継続して実施し、ヒューマン・メタバース疾患研究拠点に続く世界トップレベル研究拠点への躍進を目指す。また、次の重点分野の選定について継続して検討を行う。
		2-2-②	卓越研究分野が先導する部局横断型大型研究プロジェクトの醸成と省庁・FAへの提案支援による外部資金獲得体制強化	尾上理事	研究推進部研究企画課	2-2-②-1 各領域の研究の進捗状況の確認・評価を継続して行い、顕在化する問題点を把握し適切な強化施策の実施に繋げる 部局を超えた学際研究の見える化や、それに伴う新学術基盤の創成の実施による異分野融合型研究の基盤強化を引き続き実施するとともに、新しい分野融合型研究プロジェクトをインキュベートする 2-2-②-2 本部URAによる重点領域・先導的学際研究機構 (OTRI) 等への支援 先導的学際研究機構 (OTRI) 等の府省・競争的研究資金配分機関 (FA) への提案支援 ムーンショット、フォトニクス等の既存の課題に対する大型及び部局横断研究プロジェクト立ち上げ・運営、うめきた2期における実証実験実施支援 共創の場形成支援 (COI-NEXT) の追加支援の積極的獲得、世界トップレベル研究拠点 (WPI) を目指す領域に対する支援等による、プロジェクトの大型研究拠点化
		2-2-③	次世代AI技術によるデータ駆動型研究の加速	尾上理事	研究推進部研究機構振興課	2-2-③-1 データ・AI駆動型研究基盤の確立 学際研究プロジェクトの共創支援、データ・AI駆動型学際共創研究を拡大し、データ駆動型研究の新規プロジェクトを5件創設する。 2-2-③-2 博士課程学生をPIとする企業との共同研究プロジェクトを推進する。 2-2-③-3 社会実装に向けたデータ駆動型研究を推進し、共同研究・受託研究を15件実施する。また、データ流通基盤の構築を推進し、PLR (パーソナル・ライフ・レコード) データ (被験者実験工数累計) を延べ36,500件蓄積する。 データ駆動型研究の成果をうめきた2期 (未来創発hive)、関西万博へ展開する。

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
		2-2-④	研究環境整備、学際融合機会の創出、グローバル化の奨励など若手研究者に対する積極的な支援	尾上理事	研究推進部研究企画課	<p>2-2-④-1 ポスト確保策（総長裁量ポストの研究力強化・若手支援・D&I 推進カテゴリー、特別枠等）の継続実施 高等共創研究院における人材獲得施策の検討、若手研究者育成ステーション等における若手研究者支援策・スタートアップ支援策等の検討まとめ</p> <p>2-2-④-2 SAKIGAKEクラブ（一定規模の競争的資金を獲得した若手研究者や著名な賞を受賞した若手研究者を中心とした、ネットワーク組織）における連携機会創出支援の継続、若手層への対象拡大や社会連携の強化等のさらなる活動の展開</p>
		2-2-⑤	人文社会科学分野のポテンシャルを活かした新領域の開拓と分野包括的な研究戦略の立案	福田理事、尾上理事	研究推進部研究企画課	<p>2-2-⑤-1 学際的・国際的・社会学連携的な教育プログラムを企画運営 人文社会科学系オナー大学院プログラム「グローバル日本学」ユニットの運営 国際的・学際的なシンポジウム・ワークショップ等の定期的開催、拠点形成プロジェクトの募集・支援 学内外・国内外の研究者・研究機関とのネットワークの形成・維持・管理、アウトリーチ活動の展開</p> <p>2-2-⑤-2 研究会の開催 人文学研究科の学生に対するDH教育カリキュラムの再編と拡充</p> <p>2-2-⑤-3 方向性を踏まえた組織構想の検討 SSIプロジェクト15件を実施 ELSI型研究プロジェクト3件を実施</p>

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
2-3.	新しい社会創造に貢献するOUエコシステムの広範な浸透・充実化	2-3-① (感染症総合教育研究拠点)	「社会との共創」への接続を意識し、「+ELSI」、「新興感染症」、「PLR (Personal Life Records)」、「いのち」をキーワードに、SDGsをはじめとする社会課題の解決に向けた学際研究を実施するための基盤構築	金田理事	感染症総合教育研究拠点事務室	<ul style="list-style-type: none"> ● 以下の取組みをもとに研究体制の強化を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・感染症・生体防御研究部門におけるラボの新設（PI人事等）を着実に進める。 ・ワクチン開発拠点先端モダリティ・DDS研究センター（CAMaD）との連携を強化し、ワクチン・治療薬開発などの社会実装に貢献する基礎研究を行う。 ● 人文社会科学分野にも拡大した分野横断型「感染症」研究促進プロジェクト（49課題）を実施。 ● 上記の研究促進プログラムの進行とさらなる拡大により研究を加速させ、感染症学、免疫学に関する研究分野において研究論文を10件以上発表する。 ● CiDER-DP/PDPなどのツールも活用するなどして、経済学、心理学、数理、社会技術分野において研究論文やレポートを15件以上発表する。 ● 医師臨床研修医向け研修プログラムに加えて、薬剤師等のコメディカルスタッフ向けの新たな研修プログラムの開発に取り組む。 ● 医療従事者等向けのオンラインセミナーや研修等を自治体や医師会、他の研究機関、医療従事者団体などと連携して実施することで、年間のべ10000人以上に受講させる。 ● 感染症教育研究棟（竣工）に向けた運営体制整備を行うとともに、拠点のプラットフォーム化を推進する。
		2-3-① (研究企画課)	「社会との共創」への接続を意識し、「+ELSI」、「新興感染症」、「PLR (Personal Life Records)」、「いのち」をキーワードに、SDGsをはじめとする社会課題の解決に向けた学際研究を実施するための基盤構築	尾上理事	研究推進部研究企画課	<p>2-3-①-1 社会との共創を意識させるためのFDの実施 SSIプロジェクト15件を実施する ELSI型研究プロジェクト3件を実施する 社会的課題解決志向研究の公表</p> <p>2-3-①-2 ELSIの解決に向けた学内外のマッチングを10件実施する 産業界や行政機関等への提言を、研究や実践の蓄積をもとに実施し、ステークホルダーをつなぐ場としてワークショップやシンポジウム等を10回実施する。 公共圏における科学技術・教育研究拠点（STiPS）事業の教育プログラムと連携しELSI人材の育成に貢献する。 ELSI教材を活用してセンター独自の教育プログラムを検討し、ELSI人材育成科目を2コース実施する。</p>

令和6年度 OUアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
		2-3-②	グローバルな社会課題、未踏課題等への「挑戦」を奨励・支援する寛容な大学・部局運営	尾上理事	研究推進部研究企画課	<p>2-3-②-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の国際化を加速させるため、国際共同研究・海外渡航支援と、その成果の国際発信支援（英語論文投稿支援、英語論文校正支援）とを両軸で実施するとともに、令和7年度以降の競争的資金による研究成果の即時オープンアクセス化への対応を図る ・新たな学術領域やイノベーション創出のため、卓越した若手研究者集団であるSAKIGAKEクラブや先導的学際研究機構（OTRI）における異分野融合研究支援を実施する ・民間助成や基金等の獲得による新たな海外渡航支援事業や若手研究者支援事業等を実施する <p>2-3-②-2</p> <p>ア) 研究力に関する部局評価の方法の検討、研究力強化に資する取組に関するポリシー・ガイドラインの検討及び学内外のグッドプラクティスの収集整理。</p> <p>イ) 本部実施の研究助成事業及び部局支援施策（OUマスタープラン加速事業や戦略的ポスト配分等）の実施におけるアの成果の反映</p>

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
3-1.	社会との共創活動の推進による「知」「人材」「資金」の好循環拡大	3-1-①	産学共創の拡大と大型共同研究の拡充	金田理事	共創推進部共創企画課	<p>(1) 企業等との共同研究の更なる拡充に向けた産学共創推進活動の強化 産学連携の拡充のため以下の事項に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部問い合わせ窓口等で企業からの問合せに適切に対応し、技術相談などを通じて共同研究につなげる。 ・研究シーズ集を作成し、共創機構ホームページに掲載する。また共創機構ホームページに掲載中の各部署作成の研究紹介の更新を行う。 ・協働研究所・共同研究講座インタビュー記事を作成し、共創機構ホームページへの掲載やパンフレット配布を通じて学外に訴求する。また共創機構ホームページの更なる改良に向けて、コンテンツ閲覧状況分析などの方法論の検討を進める。 ・イノベーション・ジャパンやバイオジャパンなどで技術シーズを紹介する。 ・地域経済団体などと連携し、地元企業との連携を強化する。 <p>また、共同研究契約対応や関連制度に関する改善として以下の事項に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究費受入額112億円を目指す。 ・契約業務の効率化、リスク回避を進めるため、さらなる自動化、システム化を検討する。 ・学術貢献費制度の改善、発展に対し、研究者への周知と、研究者の意見・要望等の把握を継続する。 ・企業との共同研究に対する現状、研究者の意見、要望を把握する機会をさらに増すなどにより『共同研究支援制度』をより実効的なものとするための検討を継続する。 ・英文契約雛形については、複数当事者の共研契約、及び受託研究契約に対しても整備することを目指す。 <p>(2) 共同研究講座・協働研究所をはじめとした大阪大学方式の組織間連携の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究講座(部門)・協働研究所における連携活動を、意見交換会やコミュニケーションツール等を活用しながら、さらなる活性化、深化に繋げる。 ・共創機構と部局等との連携によるマッチング等((1)の産学連携の拡充の機会)を通じて、共同研究講座(部門)・協働研究所の拡充を図る。 <p>(3) 社会課題の解決、新たな社会価値創造を目指した産学共創の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未来社会共創コンソーシアムについて、引き続き相談企業のニーズを踏まえた柔軟な運用を図りつつ、必要に応じて制度に反映させる。 ・20~30年後の将来の地球規模の課題を深く探索しその解決を目指した異業種の複数企業との連携においては、解決すべき社会課題の探索活動を行うとともに、社会課題を解決するための具体的な産学連携プロジェクトの形成を行う。また、本連携の成果として、複数企業による共同研究を創出し、研究開発事業化コンソーシアムのモデルとする。 <p>(4) グローバル化、ビジネス・ディベロップメントの強化</p> <p>オープンイノベーション機構を共創機構の組織であるグローバルマーケティングオフィスへ移行し、グローバルマーケットでのビジネス・ディベロップメントを実施する。また、学内関係部門との連携により新たな研究テーマの評価を行い、共同研究・ライセンス・スタートアップの大型化・グローバル化の可能性のある案件のビジネス・ディベロップメントを実施する。</p> <p>(5) 産学共創に関する他大学との連携</p> <p>令和5年度に立ち上げた連携推進会議を定期的に開催するとともに、他大学の起業案件の発掘・支援等の検討を開始する。</p> <p>(6) 研究開発マネジメント人材強化</p> <p>共創機構の強化に向け事務系の専門人材育成、外部人材獲得手法の見直しを行うとともに組織のマネジメントを担う人材の育成を進める。</p> <p>組織的な人材育成プログラム、キャリアパスの明確化、人事評価制度等の人材育成制度の検討・導入を行う。</p>

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
		3-1-②	知的財産強化と安定的な知財収入の確保	金田理事	共創推進部共創企画課	<p>(1) シーズ発掘強化と「強い特許」の拡充</p> <p>1. 有望シーズのスクリーニングを継続し、新たに発掘したシーズについて研究者及び関連部署と技術移転シナリオを作成する。</p> <p>2. 技術移転シナリオを実現するための単願特許強化、外国出願を継続する。</p> <p>(2) 技術移転活動の強化による知財収入の拡充[知的財産等のライセンス収入：5億円]</p> <p>1. コア技術の特許を大学発ベンチャーに実施許諾等を行い支援を継続する。</p> <p>2. その対価として取得した株式・新株予約権を売却することで知財収益化するスキームを構築、定着化する。</p>
		3-1-③	大学発ベンチャーの創出・育成	金田理事	共創推進部共創企画課	<p>(1) 大学発ベンチャーの継続的な創出・育成[ベンチャー企業創出件数：10件]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 阪大発ベンチャーの定義見直しによる裾野拡大と、それに伴う支援拡充構築 ・ SkyDeck連携への他大学案件の参画と、他大学海外拠点の積極活用による阪大発ベンチャーの海外展開支援強化 <p>(2) 関西圏における連携ネットワークの構築による事業化促進と人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学研究シーズの事業化に積極的な企業との連携や、共同研究講座との連携を活用した阪大発ベンチャーの企業連携強化 ・ 関西圏の起業人材バンク (ECP-KANSAI) の本格稼働と阪大人材プールとの連携、及び、独自人材プールの副業人材を含めた拡充 (200名) <p>(3) イノベーション人材輩出に向けたアントレプレナーシップ教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入学時 (学部1回生) の学生へのアントレプレナーシップ教育の拡充 ・ 阪大発ベンチャーの技術シーズを増加させるため、企業社員のイントラプレナー教育の拡充により、新たなシーズを創成 ・ 海外インターンシップの全学的周知活動による、研究シーズを持つ学生の海外インターンシップ参加拡大 <p>(4) 関西圏におけるスタートアップエコシステムの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 吹田地区のスタートアップ拠点の整備に向けた関係機関、関係省庁との調整 ・ エリア別、プロジェクト別にも関係機関との連携を進め、社会実装、スタートアップを支援 ・ かんぼ生命と締結したESG 投資の推進に向けた連携・協力に関する覚書に基づき、実務者会議等により今後の連携について協議、新VCファンド設立を検討 ・ OUV1、2号ファンドから得られたリターンの活用について関係省庁等と調整

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
3-2.	社会課題から画期的な教育・研究成果を生み出す機能の強化	3-2-①	社会のステークホルダーと協働したSDGs実現のための基盤整備	福田理事	総務部総務課	<ul style="list-style-type: none"> ・本部SDGs推進委員会での検討事項の実装（令和6年度は大阪・関西万博に向けた関連事業の推進協力にも取り組む）及び、部局及び部局間でのSDGs推進体制の促進 ・産業界のみならず市民等、様々なステークホルダーが参画する共創型かつ従来にない分野群が参画する横断型（理工情報系や医歯薬生命系の参画）のSDGs関連プロジェクトの実施（2024年度までに、SSI等既存組織によるSDGsを意識した新規8件のプロジェクトの実施） ・COI-NEXT(育成型)1件をSSI基幹プロジェクトとして支援及び横断型SDGs関連プロジェクトへの発展を目指した研究クラスター形成促進 ・SDGsに関する広報コンテンツの充実化に向けて、シンポジウム等を実施
		3-2-②	新たな課題を社会から基礎研究に組織的にフィードバックする機能の確立と地域社会との共創による社会課題解決	金田理事	共創推進部共創企画課	<p>地域課題の収集・分析のためニーズ集へ情報集積し、共創機構分室等と連携した学内教員等への周知を継続する等、令和5年度に実施してきた研究現場へのフィードバック機能強化、産学共創大型拠点の地域連携に係る活動支援等を引き続き実施する。</p> <p>加えて、自治体及び地域ニーズを体系的に把握し、多地域に展開を進める人的リソース及び研究の社会実装に資するフィールド不足を解消するため、将来の自治体との人材交流も視野に入れつつ、連携可能な研究テーマの抽出・精査等に関し、自治体との対話を定期的に行う等、自治体とのネットワークをより一層強化する。</p>

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
3-3.	附属病院における革新的医療の開発・提供と安定的経営	3-3-① (医学部附属病院)	社会との接点である附属病院の機能を活かした先進的医療の開発・導入	金田理事	医学部附属病院	<p>・最新の法令、トピック等を反映させたe-learningの提供、講習会・セミナーの実施及びその検証を行う。</p> <p>・RWD（リアルワールドデータ）利活用のため 1) データカタログをもとに企業との共同研究等のユースケースの立ち上げに着手する。 2) 共同研究締結へ向けたニーズ調査等で得られた情報をもとに、DWH（データウェアハウス）への格納情報の追加やデータカタログの充実を進める。</p> <p>・遺伝子治療の橋渡し研究の支援を開始する。 1) 非臨床試験の実施に向け、具体的支援シーズに対してnonGMP（GMP：医薬品の製造管理及び品質管理の基準）製造工程開発を確立し、試験薬の製造・提供へ向けた取り組みに着手する。 2) 更に、GMP準拠製造インフラ整備に向けての取り組みを継続する。</p> <p>・医工連携による学部横断的な総合力結集及び学外アカデミアとの協力体制を加味した高度技能人材育成に向けた取り組みを実施する。また、学外からも広く高度技術を持つ人材の発掘を行い、優秀な人材の確保を目指す。</p>
		3-3-① (歯学部附属病院)	社会との接点である附属病院の機能を活かした先進的医療の開発・導入	金田理事	歯学部附属病院	<p>I：①来院確認や料金支払い、再診通知等をWebアプリ化し、さらにサイバーセキュリティを考慮したクラウド利用環境の整備 ②R5.12.1より開始した紹介患者予約業務について、広報活動等を行い地域医療機関との連携体制を充実させ、紹介患者予約件数200件/月以上を目指す。</p> <p>II：引き続き新規の歯周組織再生療法および骨造成法等の開発に取り組み、研究成果を出口へと繋げる努力を加速させる。</p> <p>III：口腔総合歯科診療センターのAIチェアユニットで収集する診療データリンクシステムの開発</p> <p>IV：患者バイオリソースデータベースの集積と管理。バイオリソースデータとバイオリソースを用いた研究を支援。患者デジタルイメージ・データベースの集積と管理。特に、口腔の疾患に関連した臨床画像情報（CT、2次元画像、3次元画像）のデータベース化を進め、円滑な利活用を可能とする管理体制の構築。口腔の疾患に関連した遺伝子等に関わる情報を安全に管理する体制の整備。</p>

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
		3-3-② (医学部附属病院1：統合診療棟)	附属病院の経営への本部の協力の強化	金田理事	医学部附属病院	統合診療棟整備：引き続き内外装仕上・設備工事を行い、竣工後に移転作業を行う 経営基盤の強化：患者数や稼働率について前年度より更なる増加に努める なお、令和6年度の病床稼働率は、85.66%で延患者数を336,402人を目標とし、 外来患者数については、1日当たり2,179人で延患者数を533,855人を目標とする。
		3-3-② (医学部附属病院2：人事制度)	附属病院の経営への本部の協力の強化	金田理事	医学部附属病院	<ul style="list-style-type: none"> 臨床工学技士業務従事手当（仮称）の創設 ドクターヘリ搭乗手当支給対象拡大の実施 緊急手術手当の支給対象者拡大（麻酔医）
		3-3-② (医学部附属病院3：働き方改革)	附属病院の経営への本部の協力の強化	金田理事	医学部附属病院	<ul style="list-style-type: none"> 医師の働き方改革に係る取組（追加的健康確保措置の実施） 医師労働時間短縮計画の取り組み状況の点検及び見直し 医師事務作業補助者の財政状況を考慮した増員（2名程度）の検討・実施 特定行為研修の推進（定員増等による研修内容の拡充の検討） 病院事務部の強化（財政状況を考慮した医事業務の体制強化等の具体的な検討・実施）
		3-3-② (歯学部附属病院)	附属病院の経営への本部の協力の強化	金田理事	歯学部附属病院	<ul style="list-style-type: none"> ◆安定的な病院収入の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・収入を増加し、支出を減少させることで安定的な病院収入の確保（稼働額26.0億円の達成） ◆病院再開発の企画・立案 <ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定（敷地利用・資金計画、スケジュール等）及び文科省協議 ◆医療機器の計画的な更新 <ul style="list-style-type: none"> ・高額かつ大型の機器設備について計画的な更新を実施 ◆働き方改革に対応した取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・多様な働き方の推進（短時間勤務制度、タスクシフティング、歯科衛生士の適正な配置）

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
3-4.	大学の戦略に基づいた最適な資源配分スキームの構築と部局を後押しする活動支援	3-4-①	組織点検・評価スキームの構築・高度化	田中敏宏理事	総務部総務課	<ul style="list-style-type: none"> ○組織点検制度の着実な運用 <ul style="list-style-type: none"> ・活動年度の半期終了後の進捗確認（10月～12月）及び次年度の計画の再確認を実施するとともに、必要に応じて各組織の計画等について改善・軌道修正を行う。 ○組織点検制度の再構築に関する検討 <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度に実施予定の組織の総点検に向けて効果的な組織点検制度となるよう、制度の検証・改善案の検討を行う。
		3-4-②	多様な財源を活用した資源配分機能の強化	福田理事	財務部財務課	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な財源を活用した裁量的経営資源により重点投資するため、総長裁量経費44億円以上を拠出する。 ・OUマスタープラン実現加速事業への予算配分を行い、次年度開始事業の審査を実施する。また、当該事業は国際卓越研究大学構想における資源配分方法の見直しに合わせて令和8年度以降に種目や要求方法等をリニューアルする予定であるため、制度内容を検討する。 ・財務会計システムと人事給与システムの連携により、総人件費（常勤教職員及び非常勤教職員に係る所属、役職、人数、雇用財源、コスト）を把握する。 ・戦略的な予算配分制度の導入に向けた検討を行う。
		3-4-③	固定資産の全学的マネジメントの強化	福田理事	財務部資産管理課	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中期計画に記載の通り、令和5年度に続き、各キャンパスの土地、建物等の現況調査及び分析に取り組むとともに、土地の利用計画、有効活用方策の策定に向けた準備を進め、実施可能なものから順次実施する。 2. 令和5年度に続き「教育、研究、医療基盤設備更新計画策定WG」での検討を継続し、中期計画に記載する設備の調査・分析に取り組む。また、設備更新状況の把握が完了した全学教育推進機構の教育設備については、先行して更新を実施しつつ、教育設備更新計画の策定を目指す。 3. 令和5年度に実施した資産貸付料の点検結果を踏まえ、資産貸付取扱要領の改正を実施する。 4. 令和5年度に続き、本部事務機構の各課が管理する土地・建物について、建物維持管理業務の一元化に向けた体制の強化を図る。 5. 令和5年度に続き、必要に応じてハウジング施設の利便性の向上を目的とした規定の見直しを検討するとともに、ハウジング施設の環境及び運用改善を進めることで、運営の効率化を図る。

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
		3-4-④	大学の戦略に基づいた人員の適切な確保	水島理事、福田理事	総務部人事課	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年4月1日以降、教員の部局裁量ポストをポイント制に切り替えて運用する。 ・各部局において、ポイント制が適切かつ効果的に運用されているか注視し、課題を探索する。 ・ポイント制を活用したインセンティブ制度の創設にかかる検討を開始する。 ・財務会計システムと人事給与システムの連携により、総人件費（常勤教職員及び非常勤教職員に係る所属、役職、人数、雇用財源、コスト）を把握するとともに、データ活用方法の検討を行う。

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
3-5.	大学の戦略を実現する財務基盤の強化	3-5-①	中期財政計画の策定	福田理事	財務部財務課	・新規事業や計画変更を中期財政計画に反映し、令和7年度の予算編成や資金計画に活用する。
		3-5-②	教育研究活動を支える財源の確保	福田理事	財務部財務課	・外部資金情報の活用方法について、活用する外部資金情報源を増やし、実質的に外部資金獲得につながり、部局等にとって真に活用できる情報を提供できる仕組みを検討する。 ・雑収入について、【機器・設備利用料収入】を対象に実態を確認し、見直しを実施する。 ・資金運用の運用金額を増額するとともに、運用方針で定める目標収益率を達成するため、必要に応じて基本ポートフォリオの見直しを行い、新たな運用を開始する。
		3-5-③	教育研究コストの見える化	福田理事	財務部財務課	・部局の財務情報（収入と支出）の整理・分析方法について、部局の意見や大学の目指す方向性を踏まえた点検・改善。 ・ステークホルダーに対する社会ニーズに応じた財務情報の多様な媒体（HPや広報誌）による発信について、アンケートや外部評価等に基づくこれまでの取組の点検・改善。
		3-5-④	未来基金の拡大	金田理事	共創推進部共創企画課	（1）卒業生・保護者・企業、地域等のステークホルダーとの関係強化による寄附金増[未来基金受入額：5億円] 未来基金の拡大に向けて、卒業生を中心に、企業、地域への働きかけも含め、共創機構を中心に各部局等と連携した募金活動を強化する。 また、寄附獲得戦略・施策等の実施に向けて、具体的な寄附獲得施策等の立案、組織マネジメント体制の整備、ファンドレイザー増強に向けたリクルーティングなど、優先順位をつけて強化を行う。また、戦略的基金室の設置に向け組織体制などの検討を行う。 （2）卒業生(元教職員を含む)との持続的関係構築と卒業生間のコミュニティ醸成 重層的な卒業生コミュニティを醸成し、大学と卒業生、さらには卒業生間のつながりを構築する。このために、新たに東京において卒業生イベントを実施し、本学のアクティビティを発信することで、関東方面で活躍する卒業生や本学と結びつきの強い機関とのネットワーク強化を図る。また、新たな卒業生コミュニティの立上げを支援するとともに、部局（専攻、研究室）単位等多様な同窓生情報の管理範囲を拡大させ、国内外の卒業生ネットワークの維持・拡大を進めるとともに、コンタクト可能な卒業生を増やし、未来基金をはじめとした本学に関する情報発信を積極的に行う。 卒業生同士のオンラインによる交流の機会を増加させるとともに、卒業生に直接的なメリットとなるサービスを充実させ、大学のSNSを通じた繋がりを増大させる。

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
3-6.	ガバナンス体制の強化とコンプライアンス遵守・リスク管理の徹底	3-6-① (質保証推進室)	持続的成長のための自律的経営に向けた運営・事務体制の強化及び質保証システム等の整備・充実	福田理事	企画部質保証推進室	第三者評価、外部評価及びステークホルダー等からの意見、及びそれらへの対応状況の調査を引き続き実施し、評価・意見への対応状況をモニタリングすることで、学内諸活動の着実な改善・改革に繋げるとともに、当仕組み自体の改善についても併せて実施していく。
		3-6-① (総務課)	持続的成長のための自律的経営に向けた運営・事務体制の強化及び質保証システム等の整備・充実	田中敏宏理事	総務部総務課	<ul style="list-style-type: none"> ・「大阪大学における事務組織の改革に向けた基本方針」に則り、本学の将来構想を踏まえつつ、事務組織体制の高度化・再構築の検討を進展させ、可能なものから順次実行に移す。 ・運営方針会議を設置し、管理運営の改善並びに教育研究体制の整備及び充実等を図る。 ・学術研究機構発足に向けて、構想案を引き続き磨き上げ設置準備を進める。 ・戦略会議の役割について、諮問機関の役割から人件費ポイント等の横断戦略を立案・推進する機関へと再定位を進め、さらなる機能強化を進める。 ・統括理事オフィス（仮称）を設置し、経営企画オフィスと連携のうえ執行部の意思決定に関するサポート体制を強化する。 ・新たなガバナンス体制構築に向けて、プロポスト、CF0の役割整理等を行う。 ・情報共有の最適化を図る仕組みについて継続的な検討・取組の拡充を図る。

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
		3-6-②	安全管理体制の強化	井上理事、水島理事	総務部安全衛生管理室	<p>1. 防災体制の強化 (安否確認システム) ・安否確認システムの初期登録率をいっそう向上させるため、安否確認訓練等を通じた啓発活動を繰り返し実施する。 (防災マニュアル) ・防災体制検討WGの運営を継続し、非常用備蓄の考え方も含む大学全体の防災マニュアル整備に向けた検討を進める。</p> <p>2. 安全安心で快適なキャンパス環境の推進 (防犯カメラ) ・安全衛生管理部が全学から収集している事故情報及び学内有識者の意見等をもとに、事故、事件及び迷惑行為等の発生防止に効果的な場所を選定し、設置を進める。これにより、大学の防犯カメラネットワークを拡張し、セキュリティの強化に努める。 ・令和7年度以降の機器更新計画の素案を作成する。 (スモークフリーキャンパス) ・受動喫煙を防止するため卒煙支援ブースの適切な維持管理を行うとともに、禁煙に関する講演会や喫煙・受動喫煙の健康影響に関する情報提供を継続して実施する。また、喫煙マナー向上に関する啓発活動を実施し、大学公式ウェブサイト等にもその内容を掲載することで構成員への周知徹底を図る。</p> <p>3. 安全衛生教育の推進 (安全衛生教育) ・学生及び教職員に提供する各種講習会については、すでにほとんどの内容をオンライン化している。この状態を継続することで、学生及び教職員がいつでも必要な講習を閲覧できる環境を維持する。 ・上記環境を維持したうえで、講習内容及び運営方法等について、常に改善点を模索する。 ・新入教職員対象の安全衛生講習会にかかる実施方法等の見直しを検討する。 ・安全衛生管理部作成の教材「安全のための手引」について、配付方法見直しを目的とした全学調査を実施し、その結果を踏まえ、新たな配付方法等の方針を策定する。</p>

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
		3-6-③	ハラスメント防止の全学徹底	水島理事	総務部ハラスメント対策事務室	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスライフ健康支援・相談センターは、ハラスメントに関する相談等に対応するため、ハラスメント相談室を置き、ハラスメント相談室は、部局、センター他部門、メディエーション室ならびにハラスメント対策会議と連携して相談等に対応する。また、キャンパスライフ健康支援・相談センターとメディエーション室が連携して、学内の相談体制の構築を図る。 ・ハラスメント対策会議が要処理事案に適切かつ迅速に対応できるよう体制の見直しを行い、規程やガイドラインを改正する。 ・構成員に対する啓発活動として、管理者向け、学生向けにハラスメント防止に関する研修会を開催する。また、全部局で定期的に年1回研修会を実施する。 ・e-ラーニングを用いたハラスメント防止に関する研修を実施し、受講率100%を目指し、教職員及び学生に受講の周知を図る。
		3-6-④	コンプライアンス遵守・リスク管理体制の強化	田中敏宏理事	総務部総務課	<p><法務体制の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本方針及びこれまでに実施した法務相談体制の充実に関する検証、並びに法務相談件数の分析を踏まえ、法務室での相談機能の強化等を引き続き検討し、必要に応じて相談件数の増加に対応可能な体制整備を行うとともに、法務室及びその機能・活動の周知を継続して実施する。 <p><コンプライアンス体制（学外通報制度を含む）の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・法的リスク事案の情報集約、相談窓口等の組織・人員・体制等の適正化、法務・コンプライアンスに関係する組織の見直し等について引き続き検討を行い、実行に移せるものから体制整備等を実施する。 <p><ガバナンス・コードへの対応></p> <p>毎年のガバナンス・コードへの適合状況の組織的点検と改善（毎年）</p> <p><メディエーション室の運営></p> <p>メディエーション室が受けたリスク事案に対し、関連する相談窓口や本部各部署と連携のうえ、問題解決に向けた迅速な対応を推進する。</p>

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
3-7.	先進的な戦略・取組の実行を担う事務組織の高度化	3-7-①	事務組織体制の強化	井上理事	総務部総務課	<p>・「大阪大学における事務組織の改革に向けた基本方針」に則り、大学の戦略的課題に対応した事務組織体制の高度化・再構築（各部署で共通する業務を集約処理する部署の設置等）の検討を進展させ、可能なものから順次実行に移す。</p> <p>・企画系人材の増強に向けて、事務組織体制の高度化・再構築に向けた設計を行うとともに、ポストの再配分等に係る方策を検討する。</p> <p><以下、3-6-①執行部のサポート体制の再掲></p> <p>・統括理事オフィス（仮称）を設置し、経営企画オフィスと連携のうえ執行部の意思決定に関するサポート体制を強化する。</p> <p>・学術研究機構発足に向けて、構想案を引き続き磨き上げ設置準備を進める。</p>
		3-7-②	事務職員の戦略的な採用・育成・配置	井上理事	総務部人事課	<p>事務職員人事制度基本方針等に基づき、令和5年度に実施した業務調査の結果を踏まえ、新たなキャリアデザイン制度を順次実施していく。そのうえで、専門職として活用し得るポストを少なくとも5ポスト選定し、当該ポストを戦略的に活用する。また、各業務分野の職種等に応じた採用、人材育成、キャリアの方針を検討し、順次、処遇、評価制度等を構築していく。併せて、サクセッションプランの策定に着手する。</p>

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
3-8.	安全かつ快適で持続可能なキャンパスの整備促進	3-8-①	老朽施設の計画的解消と長寿命化・エネルギー使用量及び温室効果ガス排出量の削減	田中学理事	施設部企画課	<p>◇老朽施設の計画的解消</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空調改修やエレベーター改修、防水改修などの老朽化対策事業の着実な実施（R6年度実施目標5億円） <p>◇施設の調査・点検・現状把握と長期修繕計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の健全性に関する調査、点検（建築基準法12条定期調査、部位別劣化状況調査等）を実施し、施設の状況を把握する。 ・施設カルテ（施設台帳）を作成し、長期修繕計画（個別施設計画）を立案する。 <p>◇パリ協定に基づくエネルギー量・温室効果ガス排出量の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーの使用に係る原単位の前年度比1%以上削減 ・全学的なエネルギーマネジメント（空調の集中コントローラーの活用等）の実施 ・省エネ工事（施設老朽化対策による空調の改修工事等）の計画及び実施 ・カーボンニュートラルに向けた人材育成のための講義（全学共通教育科目） ・新築建物等に対するZEB Readyの推進（バイオインフォマティクス棟等） ・産官学（大阪大学・大阪府・ダイキン工業）連携協定による大阪府内ZEB化等の推進（地域貢献）

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
		3-8-②	快適で魅力あるキャンパス空間の創造	田中学理事	施設部企画課	<p>◇キャンパスマスタープラン等の改定に向けた対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスマスタープランの改定 ・バリアフリーとサインのフレームワークプランの改定に向けた課題抽出 <p>◇国費・多様な財源による整備、キャンパスコモン等の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設整備（新築・改修）の実施（R6年度整備完了延床面積：約86,000㎡） ・リーディングプロジェクトの実施（吹田キャンパスのシンボル空間の形成、トイレ環境整備） <p>◇構内案内地図サインの更新</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構内案内地図サインの老朽化状況等の点検・更新の予算要求 <p>◇キャンパスランドスケープの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊中キャンパスにて、地域住民と連携し竹林の維持管理活動の実施 <p>◇入構ゲートの更新に向けた対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入構ゲートの入札・導入
		3-8-③	土地・建物等の教育研究環境の充実	福田理事	財務部資産管理課	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中期計画に記載の通り、令和5年度に続き、効率的、効果的な土地・建物等資産活用の推進に向けた調査、土地・建物等の現況調査を継続する。 2. 部局提案型スペース創出支援事業の実施：部局の未利用スペースの有効活用への支援を行うとともに、部局による全学的な用途に供するスペースの運営を求めることで、スペースの有効活用および異分野研究者の交流の推進を図る。 3. 豊中共創環境形成拠点の完成に向けて、具体的な施設運用計画を策定し、規程等を整備する。 4. 令和5年度に続き、吹田アゴラ及び豊中アゴラの建設に向けて、施設運用面の方針・計画について検討を行う。 5. 学寮及び教職員宿舎の充実化を図るため、老朽化したハウジング施設の大規模な改装・建替えを実施する計画として、グローバルビレッジ構想第Ⅱ期を推進する。

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
4-1.	ブレンデッド教育を支える学修環境の高度化 (DX in Education) の実現	4-1-①	入学前から在学中、卒業後まで「阪大生」を重要なステークホルダーとしてサポートする基盤の構築	尾上理事	情報推進部情報基盤課	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度に構築した学生向けダッシュボードの検証と検証結果に基づく改修と機能拡張 令和5年度に策定されたeポートフォリオシステムの仕様に基づき、プロトタイプを選定 問い合わせの一元管理システムを用いた学生向けワンストップサービスを一部部署で試験導入 学生のキャリア・ライフパス支援を中心とした教育体制を支援する教育情報システムの課題を洗い出し、OU人財データプラットフォームを中心とした情報基盤の整備計画等について検討・実施する。
		4-1-②	学修データを収集・利活用するための教育情報基盤の整備、制度設計、人材養成	尾上理事	情報推進部情報基盤課	<ul style="list-style-type: none"> 初年次必修の一般情報教育科目「情報社会基礎・情報科学基礎」のデータを活用し、令和5年度に開発した教員向けダッシュボードのプロトタイプ構築を引き続き進める。 ラーニングアナリティクス (LA) 基盤の運用ルールの見直し、整備を進める。 学生のキャリア・ライフパス支援を中心とした教育体制を支援する教育情報システムの課題を洗い出し、OU人財データプラットフォームを中心とした情報基盤の整備計画等について検討・実施する。
		4-1-③	ブレンデッド教育、オンライン・エンロールメントを支える安心・快適な情報インフラの整備	尾上理事	情報推進部情報基盤課	<p>令和6年度においては、同年度に稼働が開始する次期学習管理システム (LMS) の運用について、運用面の整備を進めていくとともに、他サービスとの連携について検討していく (個別取組4-1-③-1)。また、語学学修においては、メディア授業を支援するアプリケーションの導入と効果的な授業実践方法についてのFDを年に10回程度実施し、学内の特に語学教育におけるブレンデッド教育の基礎を築く (同4-1-③-2)。具体的には、サービスを活用したブレンデッド教育実施科目の割合が全開講科目の30%程度となることを目標とする。オンライン学力評価については、ロックダウンブラウザの導入を検討するとともに、オンラインテストセンターの仕様詳細について検討を進める (同4-1-③-3)。学生のキャリア・ライフパス支援を中心とした教育体制を支援する教育情報システムの課題を洗い出し、OU人財データプラットフォームを中心とした情報基盤の整備計画等について検討・実施する。</p>

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
4-2.	研究活動のフルオンライン化を可能とするeResearch (DX in Research) 環境の整備	4-2-①	研究・実験機器の自動化、遠隔化、共有化を支えるプラットフォームの構築	尾上理事	研究推進部研究企画課	4-2-①-1 コアファシリティ機構、サイバーメディアセンター、情報推進部、附属図書館等の連携により試験実装した「測定データ集約配信システム」(セキュアLAN・セキュアネットワークデータ配信システム)を介した測定データ共有等の本格稼働 4-2-①-2 本システムを本格稼働し、測定データを活用したデータコラボレーションやオープンイノベーションを推進
		4-2-②	オープンサイエンス(オープンデータ&オープンアクセス)研究環境の強化	尾上理事	情報推進部情報基盤課	4-2-②-1 ・「公的資金による学術論文等のオープンアクセスの実現に向けた基本的な考え方」(令和5年10月30日)をはじめとする国の方針等を踏まえた、大阪大学研究データポリシーの運用(データ管理・公開に関する環境の整備、FDの実施等) ・研究データ管理基盤(GakuNin RDM)とONIONとの連携等の推進 ・研究データ公開試行の継続(ONIONとの連携含む) 4-2-②-2 ・大規模・大容量データ収容部局への学内ネットワークおよびONION構成ストレージの拡充・整備 ・ONIONの利活用支援を通じたONION-2(仮称)に向けたオープンサイエンス関係の技術課題検討 ・ONIONの利活用支援に基づく研究データ集約基盤の事業化の検討 ・ONION拡張に向けたネットワーク棟改修、光ファイバー敷設、ONION拡張整備 4-2-②-3 ・民間クラウド、データ活用社会創成プラットフォーム基盤システム(MDX)との連携基盤整備による広域連携環境整備・拡充 ・スーパーコンピュータ「高性能計算・データ分析基盤システム(SQUID)」の運用 ・スーパーコンピュータOCTOPUSの運用
		4-2-③	学際融合研究、共創活動を加速する、各部局のURA活動を含めた全学的な支援環境の整備	尾上理事	研究推進部研究推進課	4-2-③-1 卓越した研究者の獲得や高度な経営判断支援等に向けた、国際URA、経営IR、経営IR機能等の強化のための経営企画オフィスの体制見直し URA×IRのためのURAディベロップメントの実施(「URA×IR業務を担う事務職員育成プログラム」の継続実施とキャリアパスの構築を含む)

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
4-3.	戦略的な大学経営を支えるDX in Managementの実現	4-3-①	OUDX基本方針に基づく各種システムの導入	尾上理事	情報推進部OUDX推進対策室	<p>(人財データプラットフォームの段階的拡大)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CDOの任命 ・人財データプラットフォームの段階的拡大(教育・研究・経営、業務DX) <p>令和6年度は、SLiCSと連携しながら教育面での利活用を開始することに加え、研究分野での利活用方法検討に着手し、令和7年度から研究分野への拡大を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業継続計画(BCP)対策の実施検討 <p>重要度の高い業務システムを対象に、要件や実現方式の検討を行い、技術的課題や費用面等の問題を洗い出す。</p> <p>(OUIDシステム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル学生証/教職員証の試運用開始および機能拡充検討 ・顔認証情報を用いた入館システムの運用開始および設置拡大 <p>(OUゼロトラスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機微情報を扱う端末へのエンドポイントセキュリティ(EDR)の導入を継続しつつ、Microsoft365 Intuneを活用したMDM導入によるリモートワイプを実現する。 <p>これにより、事務用ノートPCのセキュリティ対策のさらなる強化が可能となり、紛失・盗難時の個人情報漏えいリスクを大幅に低減することが可能となる。</p> <p>(IT人材育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ITスキルアップ研修の実施。 <p>ITパスポート試験合格を目指したITスキルアップ研修実施による大学職員全体のITリテラシー向上を目指す。加えて、ITパスポートの上位資格である基本情報技術者試験合格を目指したITスキルアップ研修(中級編)の実施を行い、より高度なIT人材育成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICHO活用テク習得研修の実施

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
		4-3-②	学生サービスの向上を見据えた教育研究活動支援業務のオンライン効率化	田中敏宏理事、尾上理事	教育・学生支援部 教育企画課	<p>○各業務システムの最適化あるいは新システム導入の検討継続</p> <p>・学生サービス（入学希望者・在学生・卒業生、留学生）の向上に向けたオンライン効率化対象業務の整理とオンライン導入に向けた検討の継続</p> <p>(1)学務情報システム</p> <p>・学務情報システムとOU人財データプラットフォームの連携強化を踏まえた情報基盤整備計画の検討・実施</p> <p>(2) 学生へのサービスのデジタル化・ネットワーク化</p> <p>・証明書発行サービス</p> <p>証明書コンビニ発行サービスについて、実際の導入に向けた業務フロー及び運用課題の整理、検討</p> <p>証明書発行サービスで導入可能なデジタル証明書（PDF）の課題整理及び導入の検討</p> <p>・デジタル学生証の導入</p> <p>デジタル学生証の試行及び正式導入に向けた課題整理、検討</p> <p>・入学手続きシステムの導入</p> <p>2025年度入学者を対象者とした入学手続きシステムの導入（学部1年次対象入試を除く）及びOUIDシステムとの連携検討</p>
		4-3-③	戦略的資源配分を支えるIR活動の全学展開に向けた環境の整備	尾上理事	企画部質保証推進室	<p>・執行部等とのコミュニケーションを通じた必要なデータの把握と収集、データ提供</p> <p>・進捗管理ツールの稼働、自己点検・評価への活用</p> <p>・進捗管理ツールの利用方法の普及</p> <p>・部局のニーズに応じたデータ分析手法、活用事例の展開</p>

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
5-1.	優秀な留学生の受入れと本学学生の海外派遣を通じたDiversityの向上とグローバル人材の育成	5-1-①	優秀な留学生を戦略的に受入れるための学内外連携体制の整備充実	深瀬理事、山本理事	国際部国際学生交流課	<p>■5-1-①-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学から就職までの一貫した支援の充実に資するため、引き続き、既存の日本語プログラム（予備教育、在学生対象）を実施するほか、学生間の交流支援、生活相談、就職支援といった留学生支援を実施する。また、留学生支援の満足度の検証を行う。 ・学外機関との連携により日本語教育を取り入れた就職支援プログラムを実施する。 <p>■5-1-①-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入数と派遣数のバランスも考慮しつつ交換留学プログラムを推進する。また、海外キャンパスを活用した現地での教育を含めた短期プログラム等、多様な短期プログラムを実施する。 ・引き続き、海外協定大学等と連携したバーチャル留学（受入）プログラムを実施するとともに、受講状況等の検証を行う。 <p>■5-1-①-3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地あるいはオンラインでの留学フェアへの参加、本学独自のオンライン留学フェアを開催するなど、多様なリクルート活動を展開する。 ・アンケート結果の継続的な分析に基づき、優秀な留学生の受入に繋がるよう、留学フェアのコンテンツを見直すとともに、戦略的に留学フェアに参加、またはオンラインフェアを開催する。 ・アドミッション支援デスクによる出願支援、申請資料等のチェックと受入教員への情報提供等を通じて、優秀な留学生の受入推進、受入教員の負担軽減に取り組む。また、活動強化に向けた情報収集とノウハウ蓄積、学内における更なる周知活動等に取り組む。 ・Global Admissions Support Office(GASO)の整備に向けて、組織・人員体制、事業計画（必要経費を含む）の具体案を策定する。 ・オンライン出願システムの整備に向けて、システム採用の選考に向けた調査（対象となる選抜、出願状況、選抜状況の洗い出し）を実施する。 <p>以上の取組等により、3,200名程度の留学生数（バーチャル留学（受入）含む）（うち交換留学プログラム等受講者数340名程度）の達成を目指す。</p>

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
		5-1-②	学生の国際性を涵養する短期海外派遣体制の整備充実	山本理事	国際部国際学生交流課	<p>5-1-②-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期海外研修のプログラムを拡充する。 ・現在実施中のバーチャル留学（派遣）プログラムをより長期の海外留学への準備・動機付けとして継続的に実施する。 <p>5-1-②-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外留学経験者の帰国報告会や交流会を実施する。 ・海外留学に関心がある学生に対し、海外留学経験者の体験談をウェブや冊子等で紹介するとともに、海外留学経験者による個別相談を実施する。 <p>以上の取組等により、1,300名程度の日本人海外派遣学生数（バーチャル留学（派遣）等含む）（うち大学提供の短期語学研修参加者数100名程度）の達成を目指す。</p>

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
5-2.	卓越した学術研究のグローバル展開	5-2-①	海外の有力大学等との戦略的組織間連携（GKP）による世界的に卓越した研究拠点の形成	深瀬理事	国際部国際企画課	<p>本学の重点研究領域等における研究活動の国際展開のため、GKPの枠組みによる海外有力大学との連携を推進し、国際的な研究ネットワークの拡大を図る。具体的には、GKP校との共同シンポジウム開催支援を通じて研究交流を活性化するとともに、若手研究者の受入派遣支援を行い国際共同研究のスタートアップを促進する。</p> <p>上記の取組を通じて、以下の達成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 重点研究分野を中心とした戦略的組織間連携のパートナー大学数：2大学の増加 戦略的パートナーとの国際共同研究実施数：40件程度 戦略的パートナーとの国際共同研究への本学学生の参画者数：100名程度
		5-2-②	高い独創性を有する研究を推進できるグローバル若手研究者育成制度の整備充実	深瀬理事	国際部国際企画課	海外大学等での研究交流を通じて研究活動の国際展開を推進できるグローバルな若手研究者を育成するため、若手研究者の海外派遣を支援（渡航費、滞在費、派遣中の教育研究業務代行人件費等）するとともに、帰国後の成果報告会の開催等を通じて研究活動のさらなる国際展開に繋げる。
		5-2-③	海外への戦略的な情報発信の強化	深瀬理事	国際部国際企画課	<p>①優秀な留学生受入のためのウェブサイトでの留学生向け情報発信、オンライン説明会の実施</p> <p>②本学の研究成果の国際的な認知度向上を目的とした取組の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 米国・英国の媒体等を通じた研究成果の配信 <ul style="list-style-type: none"> ※本学研究紹介サイト（英語版）のユーザー数：62,636（前年度比2%増）を目指す。 ウェブ英字ニュースレター「Global Outlook」の作成、配信 <ul style="list-style-type: none"> ※ページビュー数：26,052（前年度比1%増）を目指す。 グローバルナレッジパートナー（GKP）等の戦略的パートナーとの連携活動を中心としたウェブサイトにおけるグローバル・エンゲージ活動の情報発信

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
5-3.	グローバル連携による社会課題への挑戦	5-3-①	海外の有力大学等との戦略的組織間連携（GKP）による最先端の共同研究、グローバル人材育成を通じた、グローバル課題への挑戦	深瀬理事	国際部国際企画課	<p>本学の研究力強化に向けて、GKPの枠組みによる海外有力大学との組織間連携により、本学の重点研究領域等における研究活動の国際展開を推進する。具体的には、GKP候補校との新たな連携合意を目指すとともに、教育研究連携を促進する。また、国際共同研究促進のため、連携に参画する本学研究者に対し国内外の外部資金獲得のための情報提供等の支援を実施する。さらに、ネットワーク事業については、次年度開催の大阪・関西万博での連携成果等の情報発信に向けて連携大学と協議し準備を進める。</p> <p>上記の取組を通じて、以下の達成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦略的パートナーとの国際共同研究実施数：40件程度 ・戦略的パートナーとの国際共同研究への本学学生の参画者数：100名程度
		5-3-②	ASEANキャンパスの深化・広域化、現地社会に寄り添い、地域ニーズに応える共同研究・高度人材の育成の推進	深瀬理事	国際部国際企画課	<ul style="list-style-type: none"> ・ASEANキャンパスのフィリピンへの設置について、設置候補機関との交渉を続け、条件が整えば、年度内に設置を実現する。 ・ASEANキャンパスを活用した現地での教育、オンライン講義及び海外実習で構成される双方向のハイブリッド型教育を行う「Osaka University International Certificate Program」(OUICP)等の学生交流プログラムの企画や学生募集等について設置校及び連携機関と交渉し、学生交流の拡充を図る。（ASEANキャンパスに係る交流学生（受入・派遣）数（バーチャル留学等含む）年間180名を目標とする。）
5-4.	全学規模のグローバル展開に向けた推進体制の強化	5-4-①	全学的な国際戦略の立案機能の強化	深瀬理事、田中学理事	国際部国際企画課	<ul style="list-style-type: none"> ・優秀な留学生の戦略的リクルート、本学学生の海外派遣促進等に関する新たな戦略及び施策・取組の立案 ・全学的取組に関するグローバルイニシアティブ機構（GI機構）と連携部局等との連携・情報共有強化 ・学内外先進事例・グッドプラクティスの情報収集・共有、施策への反映 ・「国際サポート統括センター（仮称）」の整備に向けた組織・人員体制、業務内容等（必要経費を含む）案の策定
		5-4-②	全学的な国際連携体制の強化	深瀬理事、田中学理事	国際部国際企画課	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流委員会における全学的課題（優秀な留学生の戦略的リクルート、本学学生の海外派遣促進等）に関する意見交換の活性化 ・各部局等におけるグローバル連携・学生交流推進等に関する課題やグッドプラクティスの情報共有・可視化と全学的な取組強化・改善への活用

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
5-5.	アンコンシャスバイアス克服による女性高度人材の育成	5-5-①	女性比率が低い分野における戦略的なすそ野拡大	井上理事	企画部ダイバーシティ推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・女性比率が低い分野において戦略的にすそ野を拡大するため、アンコンシャス・バイアスの克服、小中高生に対する理工系分野の進路選択支援及び経済的不安の解消による博士後期課程進学を促進を行う。 ・ジェンダー、SOGI等に対するアンコンシャス・バイアスを自覚し、その影響を最小限に抑えるため、学部段階からアンコンシャス・バイアスについて学ぶ機会として、全構成員を対象とするe-learningによる研修を継続実施し、受講率を公表することにより各組織での意識啓発を行う。また、部局横断科目「ダイバーシティ&インクルージョンの世界」についても継続開講する。さらに、マジョリティを対象とした意識改革のための研修やセミナーを計画、実施する。 ・女子学生割合が低い学部の学生の多様化・女子学生割合の向上による大阪大学のダイバーシティの推進及び活性化を目的として、入学支援金制度を継続実施する。 ・自然科学系学部・研究科に所属する女子学生によるネットワーク（asiam：アザイム）による入試広報、小中高生及び保護者への働きかけをさらに進め前年度より女子学生入学者数増を図る。（例：小学生向け実験教室、母校派遣、女子高校生向けイベントへの参加、女子学生だけが登場する女子中高生向けの広報誌の配布等）
		5-5-②	女性リーダー育成に向けた産学連携事業の推進	井上理事	企画部ダイバーシティ推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・大学、研究機関及び企業等における指導的地位（リーダー層）の女性比率が低いため、令和5年度に新たに構築したDE&Iコンソーシアム・ハンダイを継続し、参画する企業等の協力を得ながら、産学連携事業としてイノベーション女性活躍推進プログラムにより企業の女性研究者と学生の交流を通じて人材育成を図る。また、理系女子学生と企業等との交流会等を実施して、企業で活躍する女性研究者によるロールモデル提示と女子学生のキャリアパス構築を支援する。 ・女子学生によるネットワーク（asiam：アザイム）が企業と協働で小中高生向けイベントを実施することで、すそ野拡大とアンコンシャス・バイアス払拭に貢献し、併せて女性リーダーとしての資質を醸成する。 ・クロス・アポイントメント支援制度の実施により、産学クロスアポイントメント（企業とのクロスアポイントメント）を推進し、研究の場のダイバーシティ確保により研究を活性化するとともに、受け入れた女性研究者の研究等を学内に示すことで女子学生や女性研究者のロールモデルとする。

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
5-6.	女性研究者の研究力向上に向けた環境整備	5-6-①	ライフイベントを迎えた研究者の研究活動の円滑化を支援する取組の強化	井上理事	企画部ダイバーシティ推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・研究と育児・介護等を両立する施策として研究支援員を配置する「研究支援員制度」及び短期的・集中的な支援である「プラスONE（短期教育研究支援）制度」を引き続き実施する。 ・妊娠期間から代替教員の補充が可能となるよう、出産予定女性教員の代替教員補充の弾力的運用制度を継続実施する。 ・任期付き研究者が、産前・産後休暇や育児休業を取得しやすくなるよう支援する制度を検討、実施する。 ・ライフイベントにより研究を中断した者及び一旦退職して復帰する者について、進歩する研究技術・知識を習得するサポートについて、学内の声を集約する取組を構築していく中で、別の両立支援施策も含めて引き続き検討する。 ・民間の保活・子育て支援サービス（一時預かりや子育てみらいコンシェルジュ）を活用し、0～1歳児の待機児童解消を図る。
		5-6-②	インクルーシブ・マネジメント力の向上及びDiversity & Inclusionの推進による研究領域の開拓、女性研究者の育成	井上理事	企画部ダイバーシティ推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・DE&I実装キャンパスの実現のため、DE&Iエコシステム確立に向け学内の声を集約する取組を構築、実施する。 ・ポジティブアクションとして、クローアポ支援、上位職支援を継続して実施する。 ・教員選考において、選考にあたる者の性別等の多様性を確保し、アンコンシャス・バイアスの研修受講率100%を達成できるよう検討する。また、選考にあたり出産・育児等のライフイベントを配慮できるように選考委員への研修、人事選考マニュアルの作成を検討する。 ・部局の特性に合わせたFDを継続実施する。 ・海外から優秀な女性研究者を採用する際に、パートナーも同時に招へいする制度について、教員ポストの制度設計見直しにあわせて検討する。（パッケージオファー） ・女性教員の研究力向上のため、女性教員を対象とする研究費支援を継続して実施する。 ・女性研究者の外部資金獲得状況等のデータベースの活用を検討する。

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
5-7.	InclusiveでWell-beingなキャンパス環境創出の促進	5-7-①	SOGI、障がい を尊重する Diversity& Inclusionの基 盤整備	井上理事、水 島理事	企画部ダイバーシ ティ推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・DE&I実装キャンパスの実現に向け、DE&I実装センターの設置について検討し、改組の時期を見極める。 ・多様な個性が輝くキャンパスを実現するため、SOGI及び障がいに関する意識啓発のためのセミナーを継続して実施し、施設等のハード面（学寮等）での整備を検討、拡充する。 ・大学内外に取組について周知するため、PRIDE指標のゴールドを継続して獲得する他、広報を強化する。 ・障がいのある学生・教職員が学修、研究、就業に取り組めるよう、関係部署と横断的に意見交換し、また当事者の声を集め、意識改革に取り組み、必要な環境整備及び支援体制等の仕組みについての提言を検討、拡充する。 ・人間科学研究科と協働して、人文社会科学系オナー大学院プログラムに特に障がい領域におけるDE&Iを目指す文理融合型研究の研究基盤の構築を目的とした「DE&Iデザイン」ユニット開設に向け準備を行う。
		5-7-②	構成員の子育 て支援の強化 ならびに心身 の健康づくり 施策の推進	井上理事	企画部ダイバーシ ティ推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・性別にとらわれず個性と能力が発揮できるインクルーシブな職場環境を実現するため、男性の育児休業等取得を促進するために、男性教職員と管理職を対象に研修を実施するとともに、男性育休取得率100%の実現に向けて検討し、学内に取組内容を周知する。 ・上記とあわせて、男性の家事・育児への積極的な参加への意識啓発について継続して促進する。 ・育児休業等取得を推進するための施策を実施した部局に対する評価について検討する。

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
6-1.	多様な働き方を促進し、個々人が輝ける場の構築による豊かな時間の創出	6-1-①	事務・事業の見直し、効率化	井上理事	総務部総務課	<p>(情報系人材育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報系人材の育成・DX内製化の促進 →令和5年度から開始したIT関係研修を継続的に実施することにより、DXを推進するためのスキルを持ち、実行できる情報系人材の育成及びDX内製化の促進に繋げる。(令和5年と同規模で実施予定。ITスキルアップ研修80名程度、ICHO(Microsoft365)活用テク習得研修 Teams69名/Forms80名/Power Automate約50名) <p>(働き方改革とデジタル化推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AIチャットボットの導入による問合せ対応業務の軽減 →教務窓口業務対応チャットボットの導入拡大(費用対効果の検証を踏まえて、効果が見込める部局への展開) →教務系以外の業務へのチャットボットの導入 ・RPAの積極的活用 →第3期タスクフォースによる普及活動。(係長級以下の50%以上がRPAフローを活用できることを目指す。)RPAの操作を学ぶことにより、情報系人材を育成する。 ・Teamsの利活用拡大 →Teamsを学べる環境を拡充させ、Web会議・音声通話・情報共有などを含めた、Teams活用に向けた指針制定 ・生成AIの事務業務への導入 →業務効率化とあわせて、企画業務への活用の素地づくりを目指す。必要な予算を確保し、全事務職員が生成AIを利用できる環境を構築。 ・電子決裁システムにおける法人文書管理に係る機能強化に向けた検討 →令和7年度より、電子決裁システムにおける法人文書の廃棄に係る取扱いを新たに定めることから、電子決裁システムの機能強化に係る検討を行う。
		6-1-②	働き方・働く場所の弾力化	水島理事	総務部人事課	新たな在宅勤務制度の運用状況、オンラインによる研究活動の状況等を確認・把握するとともに、KPIの目標達成に向けて障害となっている事情を把握し、必要な見直しを行う。
		6-1-③	豊かで自由な時間を創出するための快適で魅力あるオフィス環境の整備	井上理事	総務部総務課	・令和5年度に策定した本部事務機構棟及びICホールを対象とした、オフィスレイアウトの変更・家具更新・改修工事に係る全体計画に基づき、資材高騰による予算超過を考慮しながら、新たなオフィスレイアウト導入に向けた準備を進める。

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
		6-1-④ (研究企画課)	各教職員の役割の明確化、適切な評価と処遇への反映	尾上理事	研究推進部研究企画課	6-1-④-2 バイアウト制度…実績を精査し、教育企画課と連携しながら、授業等の教育活動等及びそれに付随する事務等の業務代行の件数を増加させる 直接経費からのPI人件費の支出…制度見直し後の制度利用者拡大の状況等を精査しつつ、引き続き制度利用者の増加を図るとともに、捻出された雇用財源の活用施策の見直しを実施する
		6-1-④ (人事課)	各教職員の役割の明確化、適切な評価と処遇への反映	水島理事、井上理事	総務部人事課	【事務職員の新たなキャリアデザイン制度の実装】 事務職員人事制度基本方針等に基づき、令和5年度に実施した業務調査の結果を踏まえ、新たなキャリアデザイン制度を順次実施していく。そのうえで、専門職として活用し得るポストを少なくとも5ポスト選定し、当該ポストを戦略的に活用する。また、各業務分野の職種等に応じた採用、人材育成、キャリアの方針を検討し、順次、処遇、評価制度等を構築していく。併せて、サクセッションプランの策定に着手する。 併せて、組織全体のコストパフォーマンス向上や適正な処遇の観点等を踏まえ、事務職員の評価基準、評価結果の給与への反映方法の見直しを検討する。 【教員の役割明確化と処遇】 教員評価制度、役割分化制度について、教員評価実施状況等を踏まえたうえで、個々の教員の活動の実績をより適切に評価し、処遇に反映できるよう見直しを行うとともに、啓発活動等を通じて制度の定着を図る。

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
7-1.	地域・社会・市民との共創を通じたブランドの醸成	7-1-①	OUグローバルキャンパスの持続的発展のための活動	田中学理事、尾上理事	OUGC運営会議（人文学研究科箕面事務部、附属図書館）	<p>学内外の関係機関と連携しつつ、全学的な観点から管理・運営ができる環境・システムの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪大学グローバルキャンパス（OUGC）運営会議の適切なガバナンスのもとで、所定の施策を円滑に推進するとともに、前年度の取組のフォローアップを踏まえつつ、当該年度以降の取組計画を策定する。 ・外国学図書館における本学教員・学生及び地域の諸団体と連携した活動を安定的・継続的に行える体制を構築するとともに、これに資するグローバルな資料の整備推進、及び多様な研修を通じた職員のスキルアップを図る。 ・令和5年度末の鉄道延伸等による環境変化も踏まえ、箕面キャンパスのセキュリティ機能を向上させ、学生の安心・安全なキャンパスライフを確保する。 ・地域の関係団体と連携した街づくりの在り方について引き続き検討を進め、箕面キャンパスを活用した事業の誘致も進めるとともに、主催イベント、シンポジウム等を積極的に開催する。 ・3階ピロティの利便性向上のため、多機能を有する環境を整備する。 ・COM3号館設置のサテライトラボを活用して、日本語・日本文化を学ぶ留学生による地域連携型PBL活動を推進し、社学共創基盤を強化する。 ・外国語・外国学研究等の実績を踏まえつつ、人文学研究科に設置された複言語・複文化共存社会研究センターを中心に、外国にルーツを持つ子どもたちへの支援を進め、一層の社会貢献を果たす。 ・外国語・外国学研究等に係る文献、音声データ等を附属図書館との連携のもとにデジタル・コレクションとして整備する。
		7-1-②	ミュージアム・リンクス及び21世紀懐徳堂による社学連携の総合的展開を軸にした社学アウトリーチ活動全体の活性化	泉谷理事	共創推進部博物館・適塾記念センター等事務室	<ul style="list-style-type: none"> ・21世紀懐徳堂において、中之島エリアにおける社学共創活動を継続するとともに、2025年をマイルストーンとしたクリエイティブアイランド中之島（CI中之島）のシンボル事業の準備を進める。 ・ミュージアム・リンクスの人的リソースや予算の充実を図りつつ、アウトリーチ活動や資料の集約化・デジタル化の取組等を推進する。また、重要文化財である適塾の保存・活用のための取組を推進する。 ・総長裁量経費によりワンストップWebプラットフォームシステムを構築し、社学アウトリーチ活動の総合的な展開を目指す。 ・ミュージアム・リンクスと人文学研究科との共催により、懐徳堂創立300周年記念事業の一環として待兼山修学館において特別展を開催するとともに、21世紀懐徳堂が広報面で支援するなど、部局と連携したアウトリーチ活動を強化する。

令和6年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
7-2.	阪大ブランドに係るパブリック・リレーションズ(PR)の展開	7-2-①	受験生を対象としたマーケティングに基づいたPR活動	田中敏宏理事	教育・学生支援部 入試課	<p>○対面とオンラインを組み合わせた本学の特長に関する積極的な広報活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4期における施策を踏まえた入試広報活動（オープンキャンパス、進学相談会、高校・予備校ガイダンス、模擬講義等）の実施、及びその効果の検証・見直し ・近畿圏外の高校生へのアプローチ機会を増やすため、来場型とオンライン型を組み合わせたオープンキャンパスの実施及び関東地区における高校生向けイベントの開催 ・オープンキャンパス、オンライン進学相談会等で大阪大学に接触のあった高校生と関係性を繋ぎ、出願まで至ったかをデータ的に管理できる仕組みの開発・構築（令和5年度から継続） <p>○入試広報重点地域における高校教員との関係強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入試広報重点地域へのアプローチ結果の検証と見直し及び継続的なフォローとアプローチ ・高校からの講師派遣要望・予約等を一元管理する講師派遣・高校訪問等集約システムの維持・管理及び入試広報戦略に基づく効果的な広報活動の実施 ・入試や入学後の学生の状況を高校に還元する高校へのフィードバック方法の検討
		7-2-②	優秀な研究者が関心を寄せる戦略的なPR展開	尾上理事	研究推進部研究企画課	<p>7-2-②-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卓越した研究者等の獲得に向けた、国際URA、経営IR機能等の強化のための経営企画オフィスの体制見直しを含む研究戦略の可視化、ならびに部局URAネットワークによる部局執行部支援の実施 ・公式ウェブサイト、プレスリリース、記者発表、研究専用サイトResOU、Dialogue、広報誌等による研究成果や研究支援情報、研究戦略の積極的かつ効果的な情報発信を通じた、優秀な研究者への本学の研究情報へのアクセス機会の提供 ・特に公式ウェブサイトの海外向けコンテンツ「Global Outlook」における、戦略的な若手、女性、外国人研究者の活躍紹介と、外国人研究者の視点からの本学における研究及び生活環境の優位性に関する情報発信

令和6年度 OUアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和6年度の計画
		7-2-③	ステークホルダーとの共創を活性化させるためのPR強化	井上理事、金田理事	企画部質保証推進室	<p>○広報・ブランド戦略本部で定めた広報戦略に則り、役員等と意思疎通をはかりながら、メディアの特性を把握するとともに、特性に応じた広報活動を展開し、ステークホルダーが「研究」「共創」「教育」等に触れる際に「大阪大学」を想起してもらうために社会の中での存在感を高める。具体的には、動画コンテンツの活用、公式ウェブサイト、研究専用サイトResOU、マイハンダイ、マイハンダイアプリ、効果的な広告（看板などを含む）などを用いた情報発信、専用配信サイトを構築した「Dialogue」、「mappa!」等の各種コンテンツ作成、ならびに安定的なシステム運用を図る。また、広報誌（大阪大学NewsLetter、OU Research Gazette）の発行と送付・配布、報道機関に対するプレスリリース、SNSの活用などにより、学外関係者・学内構成員に大阪大学の活動、取組、特長等を発信し、ステークホルダーとの接触機会を増やすとともに、ツールの有効性把握のため、まずは読者アンケート等の項目見直しや実施を通じて現状把握を行い、当該アンケート等の継続によりツールの有効性と大阪大学の取組についての理解度の定期的な把握に努める。</p> <p>○学内各部署との連携強化により、特に東京方面での企業経営者層、勤労世代への情報発信の強化を図る。</p> <p>○コンテンツやシステムに対する意見、令和5年度に実施したアンケート結果などを踏まえ、マイハンダイで使用しているコンテンツ・マネジメント・システム（CMS）のバージョンアップによるリニューアルを具体的に進めることにより、より一層安全で利便性が高い運用への改善を行う。</p> <p>○「統合報告書」について、内容の更なる改善を図りつつ、引き続き作成・発行する。</p> <p>○大学と、大学を取り巻く社会の状況や課題を大学役員が産業界・金融界のトップ層と議論し、今後の共創活動の推進、大学の将来構想に生かす『経済界と大阪大学の「連携の場」』を開催し、継続的な連携を行う。</p>